



ippeki



2025



Campus News

特集

海外短期留学

スイス・インドネシアの大学での研修に参加しました!

研究紹介



海外短期留学

スイスのラ・ソース大学と インドネシアのイルランガ大学の 研修に参加しました!!

イルランガ大学の研修
2月13日から2月28日までの約2週間、国際保健・看護IIIの科目において国際看護コースの2名が国際交流協定校であるインドネシア共和国のイルランガ大学での研修に参加しました。
入江さんは、母性看護領域のテーマで研修を実施しました。世界では母乳育児が推奨されています。しかし、母乳育児を選択したくてもできない母親もいるため、研修目的を母乳育児を確立していくための支援への学びを深めることにしました。コミュニティセンターでは、妊娠中、授乳中の母親への栄養指導を行いました。インドネシアでも日本と同様に母親への教育が行われていることを知り、母乳育児を推奨していくために妊娠前から母親に合った方法で支援していくことが重要だと学びました。
山口さんは、メンタルヘルス領域のテーマで研修を実施しました。精神疾患を持つ人が地域で暮らすことを困難とする要因にスティグマが存在すると考え、スティグマに対する取り組みと今後必要とされる支援について学ぶことを目的としました。インドネシアには、精神病院退院後も家族に受け入れられず地域での生活が困難な人に向けてメンタルヘルス施設があります。精神疾患を持つ人が地域で暮らすためには、家族への支援だけでは不十分であり、どのようにスティグマを軽減し、地域の人にも理解してもらうかが重要だと学びました。

ラ・ソース大学への短期留学
2月24日から3月14日までの3週間、国際保健・看護IIIの科目でスイスのラ・ソース大学での海外研修プログラムに他の赤十字看護大学の学生とともに参加しています。
ラボと呼ばれる施設での演習、スイスの政治システムやグローバルヘルス、医療システムについての講義を受けました。演習や病院での実習は日本と少し異なり、戸惑うこともありましたが、ラボは病院と同様の施設が再現されており、病院実習に行く前に学内で練習してから、実習に臨むことができます。
クリニックの見学実習や精神科病棟での実習があり、病棟の雰囲気や医療システムの違いを実感しました。精神科病棟の実習では現地の学生とペアになり、アルコール・薬物依存症のユニットへ行きました。3年次に領域別実習で精神保健看護実習に行った経験をもとに、病棟の構造、患者の様子、看護師と患者との関わりなどについて比較し考える機会になりました。現地の学生や先生などとても優しく丁寧な説明をしてくれるため、疑問に感じたことなどを質問し理解を深めています。

イルランガ

ラ・ソース



Welcoming ceremony を開催していただきました



急性看護と災害看護の授業を受講しました



パティックをプレゼントしてもらいました



日本赤十字看護大学、日本赤十字広島看護大学の学生も参加



ラボでの演習病室と同じ環境で演習を行います



Welcome party を開いてくれました

JICA研修をご存じですか？

2025年1月28日から2月27日までの約5週間、6か国(カンボジア、ケニア、マダガスカル、ネパール、パキスタン、ザンビア)8名の方を研修員としてお迎えし、JICA研修を本学で開催しました。研修員の自国での勤務先や役職はさまざまですが、最終日には自国に戻ってからの計画を発表しました。



研修生と集合写真(閉講式)

研修生の声

- * 着物を直に見たり着付けができたこと、また茶道体験は貴重な思い出となった。
- * 鞍手町包括支援センターで、高齢者が健康体操等を行って楽しそうにしていた。
- * 宗像市子ども子育て家庭センターでの研修での出産に関する研修はためになった。
- * 朝倉郡東峰村では、雪がたくさん降り、雪や雪だるまを直に見られたことは楽しい思い出となった。



着付・茶道体験



講義の様子



宗像・消防本部を訪問

Peaceful Nightを開催しました

12月23日にPeaceful Nightを開催しました♪
第1部はサークルSingによる音楽ライブ、第2部は世界で起こっている様々な悲劇に目を向ける祈りの時間を参加者で共有しました。また、「NHK海外たすけあい」の募金活動も行い、学生の代表が日本赤十字社福岡県支部に募金を届けました。



キャンドルに平和への祈りをこめて



Singによるコンサート



NHK海外たすけあい募金



地域の方もご参加いただきました

クロスカレッジ2024 公開講座を開催しました！

地域の方を対象に開催している公開講座「クロスカレッジ2024」を、今年度は4回実施しました。昨年も好評だった講座や、新しく設定したテーマの講座に多くの方が参加いただきました。

認知症予防～活動編～

10月22日 「認知症予防講座(運動編)」 講師:緒方文子 准教授
簡単な計算やしりとりなどを運動と同時にすることで、脳を活性化し、認知症の予防と健康促進を目指す運動「コグニサイズ」を行いました。階段昇降運動を行いながら、順番にお題(例えば都道府県名)の名前を言い合いました。「考える」と「運動」を同時にすることが難しいのですが、皆さん和やかに体験されていました。



意外と難しいコグニサイズ

異文化理解と体験

1月14日 「これであなたもグローバル!異文化体験セミナー」
講師:高瀬文広 教授
文化人類学者になったつもりで、国際会議に参加するというシミュレーションゲームを行いました。人々の言葉や身振りを観察し、その民族の特徴を理解することも体験し、異文化とは諸外国を知るだけでなく、同じ文化を持ったものでも異文化を感じることが出来ました。
参加者からは、「市内でも外国人が増えているのでトラブルなく暮らしていくために相互理解、尊重が大切だと感じた」といった感想が聞かれました。



グループに分かれてシミュレーションゲームを行いました

認知症予防～脳トレ編～

2月19日 「認知症予防(脳トレ編)」 講師:千原明美 助教
簡単な計算や記憶力ゲームなどの脳トレやデュアルタスク(運動課題と認知課題)を行ったり、実際に病院で行われている認知症診断のためのスクリーニング検査を体験したりしました。デュアルタスクの際には、体を動かすことで緊張もほぐれ、笑いを交えた和やかな雰囲気につつまれていました。



学生も一緒に「デュアルタスク」

いきいきシニア世代の健康づくり「笑いと健康」

3月4日 「笑いと健康(笑いヨガ)」 講師:西村和美 准教授
「笑いヨガ」について知っていますか?体を使って、大きな声で笑うことで、様々な健康効果が得られるとされています。参加者の皆さまも、最初は緊張した様子でしたが、体を使って大きな声で笑うことで、どんどん笑顔になっていき、日々のストレスを発散することができたのではないかと思います。



大きな声で「ア!ロ!ハーハッハッハッ!」

アスティ祭

11月3日
今回は、大学が宗像市と共同で実施している未来創造プロジェクト「地域住民の方が運動習慣を身につけるきっかけづくり」に関連した企画を取り入れました。具体的な測定内容は、いつもの身体測定に加えて自身の体の筋肉量や脂肪の量などを測定後、握力や立ち上がりテストなどの運動能力を測定しました。年齢は関係なく、日ごろの運動習慣が結果に影響しているようでした。



学生たちも測定や健康相談におこたえします

Q&A 2名の教員をご紹介します!

出向派遣職員
小西 彩香 先生
Q 先生の専門分野について教えてください!

病院へ就職してから10年以上、小児科病棟に勤務しておりました。対象は子どもだけでなく家族も含まれます。本学でも小児看護学領域に従事させていただき、改めて患児や家族に寄り添うケアの必要性を感じ、大切にしていきたいと思いました。

Q 本学へ来られて、大学・学生の印象はどのようなものですか?

実習も担当していく中で、先生方は学生さんにたくさん準備期間を経て、実習に送り出しているのだと驚きました。

そして、学生さんたちはとても素晴らしい環境で勉学に励むことができています。

学生さんたちとは実習や講義で会うことがほとんどですが、本学のバレーボールサークルに参加させてもらい、若い元気をもらいながら教員生活を楽しんでいます。

Q 学生に期待することは何でしょうか?

看護師を目指すにあたり、たくさんの試練や困難があると思いますが、後悔せずに積極的に頑張っていくってほしいです。

小西先生の略歴

2012年 福岡赤十字病院に入職(小児科病棟に配属)
2024年 本学へ入職(出向派遣職員)



森先生

小西先生

精神保健看護学
森 千郷 先生
Q 先生の専門分野について教えてください!

精神保健看護という分野が専門です。ストレスケア病棟にてうつ病の看護を専門で行ってきました。特に休職した患者さんへの復職支援プログラムとして職場復帰や復職後の再発予防に取り組んできました。休職した患者さんがスムーズに社会復帰できるためには、入院中の治療、とりわけ、対人関係として看護師とのかわりが必要ではないかと考え、看護師と患者の関係について研究を行っています。

Q 本学へ来られて、大学・学生の印象はどのようなものですか?

大学、大学院を本学で過ごしたからこそ、この1年、学生とかかわる中で自分の学生の頃を振り返ることがたくさんありました。学生の皆さんはプライベートな時間を大切にしながらも、真面目に勉学に励み、メリハリがしっかりしている姿が印象的でした。特に実習では、患者さんとのコミュニケーションの中で自分が考えたこと、感じたことを共有し、患者さんのためにどうしたらよいか、教員を巻き込みながら試行錯誤する姿勢に刺激をもらいました。

Q これからトライしてみたいことはありますか?

人生経験の幅が人間のおもしろさや深みを出すと思っています。そのため、いろんな人の考え方や生き方に触れる経験をたくさん積みたいですね。これまで病棟で出会った患者さんが経験されてきたお話をお聞きする時間がとっても大好きでした。たくさんの人に出会い、多様な価値観に触れることで、柔軟性をもってお互いを理解できるのではないかと考えています。わたしも魅力的な人間になれるよう自分自身をワクワクさせるような経験をしたいです。まずは、富士山に登りたいです。

森先生の略歴

佐賀県唐津市出身。本学を卒業したのち、精神科ストレスケア病棟にて、うつ病の看護を専門に行う。大学院を修了後、本学入職。

教員の研究活動を 全面的にバックアップ!!



大学独自の研究支援制度を活用した先生の研究をご紹介します。

※文中の職位は、全て令和6年度末時点

奨励研究制度

研究活動を奨励することを目的に、上限50万円の研究費を配分。

研究者は、学内で研究発表を行い、自由に研究について意見交換をする時間を設けています。いつもは、あまり話せない研究の話をする事ができ、本学の教員全体の研究活動の活性化に繋がっています。

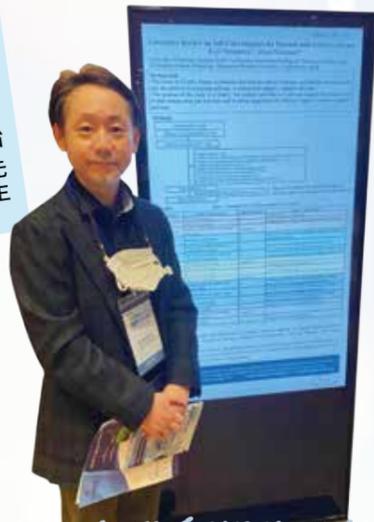
本学の奨励研究制度を活用した研究成果が公表されました。

令和5年度奨励研究制度に採択され取り組まれた研究成果について、2024年3月香港で開催された27th East Asian Forum of Nursing Scholarにてポスター発表し、2025年3月発行された本学紀要第23号へ掲載されました。

研究のタイトルは、「クローン病患者へのセルフケア支援と効果に関する文献検討」です。山本孝治准教授は長年クローン病の患者さんを対象にした看護研究に取り組んでおられ、最近では患者さんのセルフケアを高める支援に関心をもたれているとのこと。クローン病は原因不明で根治的な治療法がないことから、国が指定する医療費助成対象の指定難病です。つまり代表的な慢性病の1つであることから、看護師は患者さんのセルフケアに着目し、セルフケアを高められるように個に応じた支援を行う必要性があるとのこと。

今回の研究では海外の文献を含めた文献検討を実施されています。是非、本学紀要第23号に掲載された論文をチェックしてみてください。

山本孝治先生



27th East Asian Forum of Nursing Scholar
(2024年3月香港で開催)にてポスター発表した様子

学内での研究発表会



本学の奨励研究制度を活用した研究成果が公表されました。

令和5年度奨励研究制度に採択され取り組まれた研究成果が、1年間の研究を経て令和6年度に国際紙へ掲載、学会で成果の発表が行われました。

本研究は、学内の減災プロジェクトチームで取り組んだ研究です。

Cureus(インパクトファクター1.1)に掲載された論文は、木村涼平講師と本学の教員で取り組んだスコーピングレビューです。減災教育に関する研究成果を国際的に発信し社会的な貢献ができました。

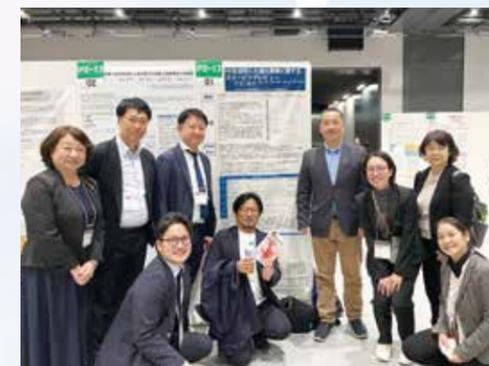
【論文】

Kimura R, Fukushima A, Kajiwara K, Sakuramoto H, Yoshihara S, Harada K, Nakayama T, Ito A: Scoping Review of Virtual Reality (VR)-Based Disaster Mitigation Education. Cureus, doi:10.7759/cureus.74062, 2024

<https://www.cureus.com/articles/314712-scoping-review-of-virtual-reality-vr-based-disaster-mitigation-education#!/>

【学会発表】

VRを活用した減災教育に関するスコーピングレビュー:木村涼平、福島綾子、梶原弘平、櫻本秀明、吉原駿、原田紀美枝、中山晃志、伊藤明子、第44回日本看護科学学会学術集会 2024年12月8日



また、2024年12月8日に熊本で開催された第44回日本看護科学学会学術集会において、「VRを活用した地域と連携した減災教育の試み」の交流集会を行いました。

伊藤明子教授(日本赤十字豊田看護大学)、中山晃志教授の司会進行から原田紀美枝准教授、木村涼平講師、吉原駿助教が講演を行い、ご参加頂いた皆さんには宗像市と共同で作成したVRの体験をして頂きました。質疑応答では、VRの体験を踏まえた活発な議論があり有意義な交流集会となりました。

教育研修・研究期間制度

教員の専門分野における教育・研究・実践の能力向上を図ることを目的に、教員が一定期間、研究に専念できる制度があります。令和6年度には、精神保健看護学領域 牧マリコ准教授が、この制度を活用し、約1か月半にわたって研究活動を行いました。



研究日制度

教員の研究活動を促進することを目的とし、研究活動における環境整備の一環として、年間24日の研究日を取得できる制度があります。研究室が個人ではない教員でも、研究に集中できるよう、個室の研究室を整備するなど、制度だけではなく、研究環境の整備にも力を入れています。



2年生後期

慢性看護実習



学部2年生が12施設27グループに分かれ、1月から2月上旬にレベルIII慢性看護実習を実施しました。感染症が流行する時期、2年生の多くが実習直前に成人式に参加しますので、感染症対策を徹底し12日間の臨地実習（一部は降雪の影響で11日間）に臨みました。

慢性看護実習は「慢性期にあり継続的支援を必要とする対象の個別性に応じた看護を提供できる能力を獲得する」ことを目的とします。レベルIIで習得した看護過程の展開に加え、対象者の全人的理解を深め実践につなぐツールとして「慢性疾患の病みの軌跡」を活用しました。

学生は臨床環境に慣れるにつれ、目的・目標の達成に向けて看護実践に取り組むことができました。中にはセルフマネジメント支援を実践したり、退院を控えた対象者の自宅訪問に同行し具体的な個別性の高い看護を実践できた学生もいました。実習を通して病みの軌跡を活用する意味が理解できたことと成果を述べた学生もいました。

今回の臨床指導者であった卒業生からは、「急性期でも病みの軌跡は有用であり、実際に活用している」という声を聞きました。2年生の皆さんにも、今回の実習経験を長期的視点に基づく看護実践に活用されるよう期待しています。

本実習は令和6年度カリキュラム改正に伴い、今年度が最後となります。平成29年度から各赤十字病院はじめ多くの病院やクリニックにご協力・ご指導いただき、厚く御礼申し上げます。令和8年度から3年生の成人看護学実習（慢性期）として新規に展開してまいります。引き続きよろしくお願いいたします。

成人看護学(慢性期)教員一同

#01

CNS コースでの学び

私は老人看護専門看護師を目指し、令和6年度に大学院のCNSコースに入学しました。前期は、講義を通して、加齢による生理的変化や病態、看護理論やガイドラインなど高齢者に関する知識を修得しました。後期は、前期に学んだ基礎知識をどのように実践に活かしていくべきか、事例検討することで知識を深化させることができました。また、高齢者の尊厳を守る看護とは何か、私が勤務先でできることは何か意識的に考えるようになりました。座学終了後、看護学実習に行きました。実習では、講義や演習で学んだことを活かし、患者さんの人生史や、ご家族との関わり、今後の生活で継続していきたいことなど、多面的に関わりました。患者さんは「もうあとは長くないから、早く帰って自分の後始末を行いたい」と話すなど、老年期の発達課題を自覚・受容しながら生活されていました。日本では、死についての発言はタブー視される傾向がありますが、動けるうちに人生でやり残したことをしたいというお気持ちを聞き、今まで高齢者の価値観やその背景について考えることができていなかったと気づきました。それ以降は、自分の看護実践や看護観、価値観を振り返りができるようになったと思います。



今後の自己課題は、専門看護師の視点で、高齢者の療養支援における卓越した看護実践能力を獲得することです。そのためには、自宅での生活と近い環境の中で看護を行う必要があることや、QOLの維持のために必要な援助は何かアセスメントする視点、患者さんだけでなくサポートしている家族への看護実践能力が必要だと考えています。今後も実習が続きますが、高齢者の目線に立ち、高齢者が望む生活は何か常に考えながら、看護を行っていきたくと考えています。

大秋 里沙

#02

卒業式・学位授与式を終えて

朝方まで降っていた雨がやみ、あたたかな春の風が吹く中で、修士課程の学位授与式を迎えることができました。会場を彩る学部卒業生たちの色とりどりの袴姿と晴れやかな表情に、私の心も明るくなりました。

また、3年間支えてくださった多くの先生方が、温かいお言葉を添えて出迎えてくださり、改めてこの大学の素晴らしさと、私をここまで導いてくれた環境に感謝の気持ちでいっぱいになりました。式の厳かな空気の中、学位記を手にして、修士課程での学びや努力が形となり、ようやく自分の歩んできた道のりに一区切りがついたことを実感しました。卒業式・学位授与式を終え、ここで得た学びと経験を糧に、臨床における継続教育に真摯に取り組んでいきたいと気持ちを新たにしています。そして、看護教育の分野で、学び続ける姿勢を大切にしながら成長し続けていきたいと思っています。

竹下 恵美



#04

修士論文発表を終えて

今回の発表では、大学院在籍中にICU患者を対象とした介入研究を行う機会を得て、その結果を修士論文として発表しました。

私の研究は、扇風機を使ってICU患者の呼吸困難に対する効果を調べるという、普通なら笑われそうな内容でもありました。研究データの分析や執筆を始めた頃は、分からないことばかりで迷走ばかりしていましたが、研究にご協力頂いた患者様やそのご家族の方々、そしてICU内の医師や看護師たちは皆、私の研究や大学院でのことなどを真剣に聞いてくださり、温かい応援や貴重な助言を頂きました。私の研究、そして大学院生活は「周囲の人」に本当に恵まれた環境であったと感じています。

研究指導教員である櫻本教授のご指導をはじめ、大学の方々、そしてゼミの仲間の支援があり、修士論文発表の日を迎えることができました。大学院生活をサポートして下さった皆様に心から感謝したいです。

向山 恵



#03

修士論文研究相談会～新たな章へ～

2月14日（金）に開催された修士論文研究相談会で、研究計画書について発表する機会をいただきました。発表は初めての経験で、緊張感に包まれながらも、研究者として一歩踏み出した実感を強く感じました。

先生方からは、研究計画書に対する的確な指摘と貴重なご助言を数多くいただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回の経験を糧に、いただいたアドバイスを参考に、より精度の高い研究計画書を作成し、研究活動に邁進していきたいと考えています。

高橋 翔



カンファレンスにて看護実践への助言をいただいている場面

指導者と対象者の情報を確認している場面

IPPEKI 2025 **01** 看護師国家試験等合格率 (令和4年度～令和6年度)

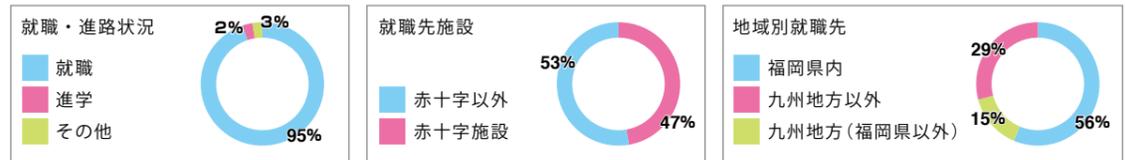
本学の看護師、保健師、助産師国家試験の合格率は以下のとおりです。

試験種別	令和6年度			令和5年度			令和4年度		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
看護師国家試験	116	114	98.3%	93	92	98.9%	118	114	97%
保健師国家試験	17	17	100%	18	18	100%	16	16	100%
助産師国家試験(大学院)	5	5	100%	4	4	100%	5	4	80%

※このデータは新卒のみを記載しています。

IPPEKI 2025 **02** 令和6年度卒業生就職・進路状況 (2月末時点)

今年度の卒業生の就職・進路状況は以下のとおりです。



令和6年度卒業生の具体的な就職実績は下記のとおりです。

赤十字施設

福岡赤十字病院、今津赤十字病院、唐津赤十字病院、日本赤十字社長崎原爆病院、熊本赤十字病院、大分赤十字病院、沖縄赤十字病院、山口赤十字病院、高松赤十字病院、神戸赤十字病院、大阪赤十字病院、京都第一赤十字病院、伊勢赤十字病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、静岡赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院、武蔵野赤十字病院、大森赤十字病院、成田赤十字病院、さいたま赤十字病院

その他医療施設等

小倉記念病院、北九州市立八幡病院、産業医科大学病院、JCHO九州病院、済生会八幡総合病院、地方独立行政法人芦屋中央病院、九州大学病院、国立病院機構九州医療センター、浜の町病院、福岡市立こども病院、福岡県済生会福岡総合病院、国立病院機構九州がんセンター、公立学校共済組合九州中央病院、福岡輝栄会病院、山王病院、白十字病院、原三信病院、福岡和白病院、貝塚病院、飯塚病院、社会保険田川病院、福岡市、国立病院機構長崎医療センター、国立病院機構嬉野医療センター、JCHO 熊本総合病院、独立行政法人労働者健康安全機構大阪ろうさい病院、パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション株式会社、神奈川県立子ども医療センター、国立病院機構、災害医療センター、聖路加国際病院、東京警察病院、国立国際医療研究センター病院、日本医科大学付属病院、東京科学大学病院、千葉大学医学部附属病院、埼玉県立小児医療センター

進学先 日本赤十字九州国際看護大学大学院

IPPEKI 2025 **03** オープンキャンパス 2025 ※詳細やお問い合わせは、公式ホームページをご覧ください。

新しい一歩を踏み出すための大切な機会、オープンキャンパスを開催します！大学の雰囲気を感じ、学びの世界に触れる絶好のチャンスです。ぜひ、お友達やご家族とご一緒に参加ください。

2025オープンキャンパス
第一回 7.26(土) 第二回 8.2(土)
ミニ・オープンキャンパス

11.2(日) 遙碧祭(大学祭)と同時開催 ★★

遙碧祭と合わせて、キャンパスの魅力をさらに深く体験できます。学内のイベントとともに、学生生活の一端を実感してください！



図書館だより

2024年度2回目の学生選書ツアーを実施しました

2024年10月17日(木)、JR博多シティ8階のMARUZENで、今年度2回目の学生選書ツアーを実施しました。今回は、1年生1名、4年生の2名、計3名が参加してくれました。



私たちが選びました

学生たちは、書店に設置の端末で、どんな本があるかをじっくり検索したり、さまざまなジャンルの書棚を何度も行ったり来たりしながら選書していました。また、この選書ツアーを担当して下さっている書店の方と雑談する姿も見られ、それぞれに選書の時間を楽しんでいるようでした。次年度も2回の開催を予定しています！みなさんも学生選書ツアーに参加してみませんか？みなさんの人生を変えよう！

購入図書リスト

- ・対人援助の現場で使える傾聴する・受けとめる技術便利帖
- ・パーフェクトな意思決定…「決める瞬間」の思考法
- ・「コーダ」のほくが見る世界…聴こえない親のもとに生まれて居るのはつらいよ…ケアとセラピーについての覚書
- ・倫理的なサイコパス…ある精神科医の思索
- ・病気であった病気がない
- ・あなた次第でこの世界は素晴らしい場所になる



Charibon
古本募金へのご協力
ありがとうございます!!



参加した学生が
おすすめコメントを記載した
ポップも作成してくれました!



このツアーで選ばれた図書は、本学古本募金※で得られた寄付金により購入しています。本学古本募金にご協力くださったみなさまへこの場をお借りしてお礼を申し上げますとともに、引き続きご支援賜りたくお願い申し上げます。

※古本募金とは
古本を査定会社に送ると査定会社が換金し、その金額が大学に寄付されるものです。得られた寄付金は、学生の学修に必要な図書の購入に充てられています。

WHOLE BRAIN…心が軽くなる「脳」の動かし方
 人体大全…なぜ生まれ、死ぬその日まで無意識に動き続けられるのか
 プルーフ・オブ・ヘヴン…脳神経外科医が見た死後の世界
 がん…4000年の歴史(上)
 がん…4000年の歴史(下)
 「死」が怖くなくなる50の神思考
 安心して、死ぬために…幸福なまま、旅立たいと思っているあなたへ
 今さら聞けない睡眠の超基本…快眠法の前に
 スタンフォード大学のちと死の授業
 おしゃれ防災アイデア帖…日々の暮らしに馴染み、もしもの時は家族を守る70の備え
 今日から始める本気の食料備蓄…家族と自分が生き延びるための防災備蓄メソッド
 三國シェフのベスト・レシピ136…スーパ一の食材でフランス家庭料理をつくる永久保存版
 韓国語1年生…ゼロからわかる!楽しく続けられる!
 肝炎・肝硬変・肝がん
 臨牀のスピカ
 患者に合わせた処方意図がわかる!
 同効薬・類似薬のトリセツ
 プロとして知っておきたい!介護保険のしくみと使い方
 ケアマネ・相談援助職必携
 最新図解大人の発達障害サポートブック

本学学生がビブリオバトル九州ブロック決勝、全国大会へ出場しました

第15回全国大学ビブリオバトルへの出場を目指し、本学の代表として2年生の深川結美さんが九州Dブロック決勝へ出場。見事優勝に輝き、全国大会への出場を決めました。本学学生の全国大会への出場は、今回で6回目です。12月22日、昭和女子大学(東京)に、全国各地のブロックから選ばれた30名が集い、本戦が開催されました。当日は6組に分かれて準決勝を行い、その勝者6名による決勝戦が行われました。

深川さんの発表する会場は、6つの準決勝会場の中で最も多く、多くの聴衆者であふれていました。くじ引きによる発表順決めでは、1番を引き当てた深川さん。緊張しながら、おすすりめ図書『今宵も喫茶ドードーのキッチンで。』を手に壇上へ向かい、物語の魅力やこの本との出会いなど、静かに口調で語りました。聴衆者はその発表にぐっと引き込まれていく様子で、発表後には質問の手が挙がり、深川さんは落ち着いた様子で応じていました。

投票の結果、決勝出場とはなりませんでしたが、他大学の学生と交流を持つ場ともなるこの大会は、深川さんにとって良い経験となったようです。

深川さんの感想

今回、初めてビブリオバトルに出場しました。学内では、他学年の方々が紹介する本を通して自分の看護観や人生観について考えることができ、自分の中で新しいことと向き合えるきっかけになりました。また、他大学の方々との交流もでき、とても楽しかったです。また、全国大会に行けるという、もう一度ビブリオバトルに参加したいと思いました。



本学では、今後も、学内で小規模のビブリオバトルを開催していく予定です。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」がキャッチコピーのこのゲーム。学生の皆さん、お気に入りの本を持って参加してみませんか。



大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けられました。「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの願いが込められています。

書：吉田 歩さん（2014年度 看護学部卒業生）



公式 SNS をフォローして、
「日本赤十字九州国際看護大学」を知ろう！



YouTube



https://www.youtube.com/@jrckicn_youtube

Instagram



大学公式Instagramです。
@jrckyushu_college

一碧



本広報誌「一碧」は
Web版でも公開しています。

日本赤十字九州国際看護大学のホームページでは、最新の発信を更新しています。

[<https://www.jrckicn.ac.jp/>]

日本赤十字九州国際看護大学 🔍



∞ ———— 寄付のお願い ———— ∞

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。
寄付金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。
詳しくは、本学ホームページでご確認をお願いいたします。



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

発行：日本赤十字九州国際看護大学

〒811-4157 福岡県宗像市アステイ1丁目1番地
Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021